

令和5年度（2023年度）

金沢大学法科大学院

入学試験問題

刑 法

D日程入試

（注意）

1. 問題冊子（表紙を含む）は3枚です。
2. 問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
3. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
4. 解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。
5. 解答にあたっては、どの問題から解答しても構いません。ただし、どの問題についての解答であるのかを答案中に明示してください。

令和5年度（2023年度）金沢大学法科大学院入学試験問題

試験科目	刑	法
------	---	---

以下の問題について解答しなさい。

問題1（各5点）

以下の語句あるいは概念を説明しなさい。解答の際は、定義だけを記述するのではなく、学説の議論状況や判例の状況など解答すべき内容を問題に応じて自ら選択し、具体的な事例を自ら設定したうえでそれぞれ解答用紙5行程度で解答すること。

- (1) 「財物」概念
- (2) 偽証罪における「虚偽の陳述」

問題2（15点）

次の事例におけるXの罪責を論じなさい。ただし、特別法違反の点は論じる必要はない。

Xは、予てから反目していたAおよびBに拉致されてK市郊外にある木造倉庫の中に監禁されていた。監禁中Aらはロープで椅子に縛り付けたXに対し、「お前の存在は目障りじゃ」、「この世からいなくなった方が世の中のためじゃ」などと言いナイフを示しながら殴る蹴るの暴行を加えており、XはAらに殺される可能性が高いと考えていた。

監禁が開始されて3日目、Bがコンビニに買い物に行っている最中、Aはうとうとしました。偶然にもXを縛っていたロープが緩んでいたため、Xは逃げ出すのは今しかないと考えた。Bがいつ帰ってくるかわからない状態では、Aらが自分に構ってられない状況を作出するしかないと考えたXは、倉庫内に敷かれていたカーペットに持っていたライターで火を付け、炎が上がった瞬間に逃げ出した。ちょうどその時Aが目覚め、Bがコンビニから帰ってきたが、Xの期待通りAらは消火活動に取り掛かりXの再拘束を断念したため、Xは無事に逃げおおせた。

結局、火はXが拘束されていた倉庫を全焼して消し止められた。同倉庫の近隣

には他にも数棟の倉庫があったが、それらには燃え移らず、Aらも最終的に逃げ出したため人的被害は全くなかった。また、XはAらは逃げ出さだろうと考えており、人的被害が発生するとは考えていなかった。

以上